

創造

No.
59



CONTENTS

● エッセイ	2
● 第35回「とやま賞」	3
● 「夢の卵」育成事業	6
● きらめき未来塾	8
● アイディアロボットフェスタ	9
● 幼児教育支援セミナー・高等教育振興事業	10
● 平成31年度 財団事業概要	11

「文化」と「非効率性」 を考える

富山大学長

遠藤 俊郎 氏



私は、1979年秋に当時新設された

富山医科薬科大学に着任し、脳神経外科医・大学人として約40年を富山で過ごしてまいりました。2011年からは、2005年に誕生した国立大学法人富山大学の2代目学長として、多くの皆様に支えていただきながらその運営／経営に当たってまいりました。2018年4月からは「全学部教養教育の五福キャンパス一元化」及び「都市デザイン学部」がスタートし、富山大学にも新たな歴史が刻まれています。今回は機関誌「創造」のエッセイ執筆のご指名を頂きましたので、これまで生きてきた日々を振り返りつつ、新しい時代に夢を抱きながら、最近こだわりを感じているふたつの思いに

つき書き留めてみます。

一つは、言葉のもつ意味の大切さと違いについてです。典型的な例が「文化 culture」と文明 civilization」です。辞書には以下の記載があります。

広義の「文化」は、人間がつくり出した精神的、物質的な成果のすべてを表わし、「文明」を含んだ広い意味となる。一方狭義の意味での「文化」は学問、芸術、道徳、宗教など人間の精神の働きによって作り出されたものをさし、「文明」は人間の外面的な生活条件や秩序など物質的存在をさし、使い分けられる。

世界は今まさに「人の能力と人を越える能力が重なりあう改革の時代」を迎えています。近未来には、人工知能と人類の共存は必須の世の中となることでしょう。同時に、変化が生み出す不確定で不安定な社会経済情勢に対し、世界の国々は新たな秩序形成を模索し、その影響は人々の人生観や倫理観をも変えようとしています。特に自身が関わってきた医療と教育の現場では、人の命と人生に直接関わる分野ゆえに、将来の形を求める探求と研鑽の道は複雑で、困難さを増していることを強く感じます。

即ち、近年の歴史の中で、進歩・普及したのは「文明」であり、「文化」の存

在はいささか軽んじられてきたのではな
いか？ 医学・医療界で言えば、先進医
療は「文明」の象徴で、その進歩が患者
さんの人としての倫理感や生き方・「文
化」を大きく変えようとしているのでは
ないか？ そんな思いが募ります。

それ以外にも「知能 (intelligence)
と知性 (intellect)」「会話 (conversation)
と対話 (dialogue)」「プロフェッショナ
ルとエキスパート/スペシャリスト」な
ど、気になる言葉はつきません。

もう一つのこだわりは、非効率性や不
便さを楽しむ時間/生活の楽しみ方です。
例えば私は、マイペースでゆったりと走
る自転車が好きです。海から山へ、変
化する自然を楽しみながら、様々な気づ
きに出会う時間、車では決して体験でき
ない異質の世界です。また最近偶然に体
験し、日々の習慣となったことが一つあ
ります。それはコーヒーをペーパード
リップで入れることです。日頃豆を購入
していた近所のお店の初級者講習会に、
何気なく参加したことがきっかけでした。
「美味しいコーヒーを入れるために必要
なもの蒸らしです。最初に適温に調整
したお湯を、専用ポットから約20ccコー
ヒーにそっと優しく注ぎ、まんべんなく
お湯を含ませ、そのまま20秒ほど待ちま
す。」で始まる、味わい深い一連の作業
にすっかりはまってしまいました。マス
ターの締めの一言、「効率ばかりでは薄っ

ぺらになります。非効率なこと、一手間
かけること、これが物事を味わい深くす
るのではないのでしょうか」、を付け加え
ておきます。

最後になりますが、現在国立大学を取
り巻く環境は、年々厳しいものとなって
います。私は、「日本の文化・学問」を
考え、育てるために国立大学が果たして
きた役割は大きく、それは今後も変わら
ないと信じています。しかし同時に、大
学人が「危機意識を持たず、安易な現状
維持」のみを求めるならば、それは大学
としての役割を自ら放棄するもので、社
会/人々の期待を裏切るものと考えてい
ます。大学にとどまらず、次の世代を生
きる皆さんが、己のプライドを持ち、心
豊かに生きることのできる新たな世界を
創出して下さること心より願っています。

プロフィール

遠藤 俊郎 (えんどう しゅんろう)

国立大学法人 富山大学長

1946年宮城県仙台市生まれ。医学博士。
71年東北大学医学部医学科卒業、77年同附
属病院脳神経外科助手。80年より富山医科
薬科大学(現富山大学)医学部脳神経外科
助教授、99年より同脳神経外科教授を歴任
する。2009年より同附属病院長。11年4
月より富山大学長に就任。

第 35 回

平成30年6月5日(火)

「とやま賞」贈呈式

贈呈式・受賞者スピーチ

「とやま賞」とは…

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化、芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体の活動を奨励するものです。



中島選考委員長による講評



石井理事長より賞状・目録贈呈



第35回「とやま賞」贈呈式は、去る6月5日に、富山国際会議場メインホールにて執り行われました。贈呈式では、受賞者5名に石井理事長から賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者に、これまでの経緯についてスピーチしていただきました。

今回の受賞者

受賞者によるスピーチ

大学卒業後に医師としての研修生活を送っている中で、専門領域である循環器内科の中でも、特に若年性に発症する難病指定疾患の肺高血圧症患者に出会い、なんとかしたい、と強く感じました。この病気は、自分の研修医時代にはまだ治療法がほとんど開発されておらず、10代〜30代の若い世代の人が突然発症し、何度も心不全での入院を繰り返して、そのうちに不幸の転帰を辿る、という病気でした。当時は自分と同じ年頃の若者が通常の学生生活も青春もなく、人生の多くの時間を病院で入院生活を送って、という状況に、医師としての無力感に苛まれ、ただ、それでもなんとか少しでも原因を解明して新しい治療法を見つけない

この度、「とやま賞」を頂きましたこと大変光栄に思います。大学進学後は富山を離れての生活でありましたので、生まれ育った故郷である富山から頂く賞は格別の想いがございます。財団関係者の方々、また、これまでにご指導いただいた諸先生・諸先輩方に深く感謝申し上げます。



片岡 雅晴 氏

「難病循環器疾患における病態解明と治療法開発による医療貢献」

慶應義塾大学医学部 循環器内科 講師

学術研究部門 医薬分野「疾患病態治療学」

と強く思っていました。

原因不明の病気を解明するには、その患者さん達の個々の原因を丁寧に調べていくしかありません。しかし、個々の原因を調べるには、どこからどう調べていけばよいのか、方向性を見つめるためにある程度の患者さんの母集団を集めた研究が必要になります。そこで、指導いただいた先生方や多くの医師仲間から協力をいただき、倫理的な配慮を行った上で、この難病疾患に特化した国内最大規模数の患者検体を収集し、バイオバンクとして体制を構築し、疾患の発症原因究明・病態解明に向けた取り組みを行うための環境作りを行いました。その上で、疾患発症に寄与する原因遺伝子解析等の一連の成果を得ることが出来ました。また、新しい低侵襲治療法を世界に先駆けて開発し、国内外での治療法普及に努める過程において、日本だけでなく欧米でも治療ガイドラインに組み込んで頂けるだけの成果をまとめることも出来ました。

しかしながら、自分の専門とする疾患領域だけでも病態解明はまだ完全ではなく、患者さんごとの個別化医療の実現のためには多くの努力を積み重ねなくてはならない状況です。さらに、将来の医療の有り方を想定し、昨今の次世代シーケンサー等の最先端の機器の開発や人工知能に代表される技術進歩と、どのように歩調を合わせながら取り組んでいくべきかを検討することも必要です。この度の「とやま賞」の受賞を大きな糧とし、今後ともより一層の努力を行い、医師と

して日々の臨床と研究活動に邁進していきたいと思えます。

学術研究部門 理工分野「化学」

富山県立大学工学部教養教育 准教授



山村 正樹 氏

「元素の特性を活用した 高分子複合体の設計・開発」

この度は名誉ある「とやま賞」を賜り、富山県ひとづくり財団ならびに関係の皆様様に心より感謝申し上げます。私は富山で生を受けて大学進学を機に上京して以来、約20年間関東で過ごして参りましたが、現職への着任により帰郷しております。

私は東京大学理学部化学科・川島隆幸教授のもと有機化学分野で学位を取得し、以来有機化学分野の研究に携わっております。有機分子はかつては生命体のみが作り出す物質とされておりましたが、人工的に有機分子を作り出せるようになってからは、プラスチックなど様々な機能性物質が作られるようになりました。有機化学の醍醐味は、何と云っても世の中になかった物質を自分の手で造り出す、創造の楽しみです。

有機化学が対象とするのは単独の分子ですが、日常にある物質は分子の集団としてふるまいます。分子の集合体を取り扱う分野を超分子化学と呼び、目に見えない分子を集めて高度な機能を目指すナ

ノテクノロジーに必須の分野です。今回の受賞となった研究は、私が筑波大学数理物質系化学域・鍋島達弥教授とともに行った超分子化学に関する研究です。分子一つ一つをパズルのピースのように見立て、分子を組み立てて巨大な分子集合体を作るのは、まさにナノサイエンスの世界のもの造りと言えるでしょう。

もの造りの研究には必ず失敗は付き物ですが、失敗には必ず成功のヒントが隠されていると信じています。大事なことは失敗に向き合い何かを学ぼうとする姿勢です。年々、思うのは学ぶことは無限にあり、それを教授してくれるのは自然であるということです。

最後になりますが、本成果は筑波大学超分子化学研究室の皆様をはじめとした多くの共同研究者の皆様とともに成し遂げたものであり、この場を借りて感謝申し上げます。

学術研究部門 人文社会分野「心理学」

富山大学人文学部 准教授



坪見 博之 氏

「視覚的注意とワーキングメモリの 容量制約に関する実験・心理学的研究」

このたびは栄えある「とやま賞」をいただき、誠にありがとうございます。私の研究は、「ヒトが外界をどのように認識するのか」という哲学的な問題から出

発しました。特に、視野の中で注意を向けることができる量や、ワーキングメモリと呼ばれる短期的に情報を記憶できる量が、極めて少数に限られていることに注目し、実験心理学的手法と認知神経科学的手法を組み合わせてメカニズムの検討を進めてきました。脳には一億程度のニューロン（神経細胞）があり、銀河系の星の数に匹敵するとも言われます。しかし、そのように多くのニューロンがあるにもかかわらず、私たちは眼に映ったすべてを認識できるわけではありません。なぜ、どのようにヒトの認識や意識が限られるのかについては謎が多く、意識の研究は科学の最後のフロンティアであるとも言われます。研究を続けるのは楽しくもありながら辛いことも多い日々ですが、今回、これまでの業績を評価していただけたことが大変な励みとなりました。

私は広島県の出身で、2012年に富山大学に着任以来、せっかく富山にいないかと思っております。しかし実際には、私の研究は富山ならではのテーマではなく、また、すぐに実利を生むわけでもありません。富山らしい研究テーマに取り組んだ方がいいのではと考えたこともありました。しかし今回、「とやま賞」の受賞をさまざまな方に報告するうちに、「富山県はそのように基礎研究を評価してくれるのか」と羨ましがれることが多々あり、このような形で富山県の良さを伝えることができるのだと感じました。また、論文が国際誌に掲載されれば、世

界に向けて「Toyama」の名前を広めることもできません。これからもできるだけ多くの方に「Toyama」の名前を見ていただけるよう、研究に邁進していきたいと思えます。

学術研究部門 人文社会分野「刑事法学」

九州大学大学院法学研究院 准教授



野澤 充氏

刑事学における法制的観点からの研究分析方法の再構成——中止犯制度を素材に

このたびは「とやま賞」という栄誉ある賞を頂くことができ、大変うれしく思います。

私の研究分野は刑事法学、とりわけ刑法学です。刑法学とは犯罪や刑罰に関する法律を研究する学問であり、「どのような場合に『犯罪』として刑罰が科されるのか」を、理論的に説明するものです。しかし従来までの刑法学の研究方法は非常に表層的で字面のみを主観的に捉える傾向がありました。ですが刑法学が「学問」として成り立つためには、客観性・汎用性が必要です。このような観点から私が研究の客観性を担保するための手がかりとしたのが、「法制的観点」です。すなわち、現在の法制度は人間が社会を形成していく際の判断の手がかりやトランプの回避のための人間の知恵として作られたものです。そうであるならば、そ

もそも法律規定が過去にどういう趣旨で作られたのかを探ることが、その意味を明らかにする重要なアプローチとなると考えたのです。

このような法制史アプローチの素材として私が選んだのは、「中止犯」（刑法四三条但書）でした。結果が発生しない場合を未遂犯といいます。これを自己の意思で、自分から犯罪結果をもたらさないようにやめた場合を中止犯というのです。従来の理解ではこの中止犯は「反省」「悔悟」による事例がイメージされていたのですが、それでは他の規定との関係で説明のつかない箇所が出てきます。ここに、中止犯制度の起源の研究の必要性があつたのです。この中止犯制度の起源を明らかにすることで、現在の中止犯規定の意味内容を捉えなおすことも可能になりました。これによれば、犯罪結果を望まなくなりさえすれば中止犯としては十分なのであり、別に「反省」は必要ないのです。他にも、刑事裁判で未遂犯が成立する際に検察官が立証すべき内容など、細かい点で未遂犯・中止犯に関する新たな知見を刑事法学に提供することができました。

こうして研究者となるまで、本意な思いをする時期もありました。ですが、「人間万事塞翁が馬」の言葉のとおり、そのうまくいかなかった時期こそが、次のステップにつながることもありました。そのような時期も私を支えてくれた家族への感謝の言葉とともに、今後も刑事法学の発展のために研究に邁進していきたいと思えます。

文化・芸術部門 声楽

東京二期会 オペラ歌手
名古屋音楽大学 専任講師



森 雅史氏

声楽（バス）

この度は栄えある『とやま賞』を賜り、ご尽力いただきました故郷富山の皆様に心よりお礼を申し上げます。私がプロのオペラ歌手として、イタリアとドイツの歌劇場の舞台に立つという夢をかなえ、帰国した今も歌い続けていられるのは、富山で生まれ、皆様に育てていただいたからこそと思っております。高校を卒業するまで富山で育ちましたが、音楽と読書が好きで少年だった私の好奇心を満たし、導いて下さる先生方との出逢いは、今から思えばその全てが運命だったとしか言えないほど、その教えは私という人間の土台となっております。オペラ歌手は、舞台上で歌い演じるわけですが、その際、音譜以外にも詩や文章を読み解く高度な読解力の他、時には歴史的な背景を踏まえた役作りが求められ、イタリア語やドイツ語といった語学力の他、指揮者や演出家の意図を表現するための想像と創造をする能力が必要となります。こうした私の個性に繋がっている能力は、富山で生まれ育ったからこそ培われたものです。その中でも呉羽高校で歌い手に

なるようアドバイスを下さった黒崎隆憲先生との出会いは私の人生の宝物です。

この度の受賞は、故郷の歌唱芸術振興にどのように携わっていかれるかを考えさせていただき、本当に良い機会となりました。故郷の皆様様に歌声を届けるべく、イタリアから友人のバリトン歌手を招き、12月に初めてのリサイタルを高岡で行う事にいたしました。今後も、故郷の皆様様に様々な形で、演奏をお届けできる機会を増やしていきたいと思っております。最後になりましたが、この度の受賞に恥じぬよう演奏活動を続けて参ります。本当にありがとうございます！

お知らせ

第36回「とやま賞」贈呈式

日時：2019年5月29日（水）

贈呈式 13時30分～14時00分

受賞記念講演 14時10分～15時50分

場所：富山国際会議場メインホール

※申込不要で、どなたでも参加いただけます。

お問合せ先

TEL：076-444-2000 / FAX：076-444-2001

E-mail:toyama-award@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp/zaidan/

夢の卵★ 育成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画されました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらふこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16年度から実施しており、今年で15回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢（＝夢の卵）」を書いた作文を募集し、その中から選ばれた4名の児童生徒が、各分野の第一人者に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、次点となった作品を佳作として表彰しています。

小学生の部（応募数1,325作品）

将来の日本の宇宙開発に貢献できる技術者になりたい

富山市立山室中部小学校6年 清水 詩音 さん

この半世紀における日本の宇宙開発技術の進歩の早さに、驚きと憧れを抱き、将来は自分も日本の宇宙開発に関わり貢献したいという強い意欲を持って、富山県立大学工学部電子・情報工学科に入門しました。



モデルロケットを製作しました。



打上げに成功!!



体験記より

宇宙開発に携わる方々は、失敗の許されない厳しく緊張感のある現場におられると教えていただきました。今回のモデルロケット打ち上げも同じで、地道な作業の連続ですが、それだけに成功したときの喜びは格別なものでした。今回の入門で、将来は宇宙工学について学び、日本の宇宙開発に貢献したいという気持ちが、これまで以上に大きくなりました。

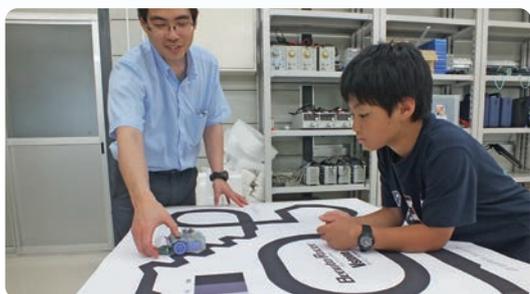
人の役に立つロボットを作る人になりたい

富山市立速星小学校5年 高瀬 心海 さん

普段の生活の中から、介護、家事、災害に注目し、その現場で役に立つロボットを作り、人々の暮らしを良くしたいという優しさや強い気持ちを持って、富山県立大学工学部知能ロボット工学科に入門しました。



先生が研究された義手を見せてもらいました。



製作したライトレースロボットを走らせてみました。



体験記より

今回の入門で、ロボットについてたくさんの知識を得ることができました。ひとつのロボットを作るためにも、様々な行程があり、とても複雑で難しいと感じることがたくさんあります。ですが、それがロボットづくりの魅力ではないかと思いました。



平成30年度 夢の卵表彰式



- ① 医師
- ② サッカー選手
- ③ パティシエ・菓子職人
- ④ 野球選手
- ⑤ 保育士



<今年度の短期入門者数と応募数>

応募数	小学生の部	1,325作品	中学生の部	804作品
表彰	小学生の部	優秀賞（短期入門）2名	佳作	15名
	中学生の部	優秀賞（短期入門）2名	佳作	13名

中学生の部（応募数804作品）

大地震を100%の確率で予測できる
研究者になりたい

高岡市立中田中学校2年 篠田 真吾 さん

プレートの活動に注目することで地震の予測ができないかと考え、その観測方法について研究し、大地震の被害を減らしたいという強い向学心と正義感を持って、名古屋大学減災連携研究センターに入門しました。



VRゴーグルで大地震を擬似体験しました。



緊急地震速報について教わりました。



将来はぜひ地震予知につながるような研究をして、少しでも被害を減らすために役立ちたいと思うと同時に、我々が今できることは、普段から減災のための備えをしておくことだと感じました。



福井県立大学海洋生物資源臨海研究センターを見学しました。

今後の日本の海を守る漁師になりたい

富山市立城山中学校2年 村上 統哉 さん

近年の水揚げ量の減少から、将来の漁業に不安を覚え、それを解決するためには、養殖の研究や技術開発が不可欠だと考えました。そして自らがその研究に取り組み、将来の日本の漁業と食文化を守りたいという強い意欲を持って、福井県立大学海洋生物資源学部に入門しました。



「日本の海を守る」ためには、環境に優しい養殖漁業は必要だと感じました。また、その養殖を支えるためにも、地域の産学官が一体となって「小浜よっぱらいサバ」のブランド化に努力しておられる様子を見させてもらい、とても勉強になりました。また、早朝からの定置網漁体験、そしてその魚が出荷、競り落とされるまでの一連の流れを見学できたことは、とてもいい経験になりました。



定置網の網上げを体験しました。

子どもたちの発想力や創造力、ユーモアのセンスなど多様な可能性を引き出す目的で、各分野で活躍されている方を講師にお招きし、夏休み期間中に3つの道場を開催しました。

右脳活用道場

直観的なイメージ、柔軟な発想力、創造力を形にする表現力を育てる

講師：森 みちこ 先生（漫画家）

昨年に引き続き森みちこ先生（漫画家）を講師に迎え、漫画作りを通して、自分のアイデアを絵と言葉で表現する手法を学びました。

みんなに読んでもらう作品として仕上げることを体験することで、自分のイメージや思いを伝える絵や言葉の展開、表現方法の難しさと、1つの作品が出来たときの達成感を味わいました。

※みんなが描いた漫画は、1冊の漫画本としてまとめました。「トヤマイーブックス」で電子書籍を見ることができます。

- [7/26] 4コマ漫画を描く
- [7/30] ネームを描く
- [8/ 9] ショートストーリー漫画を描く
- [8/23] 漫画原稿の仕上げ



きらめき未来塾



思考道場

ゲーム感覚で数学的な考え方を磨き、柔軟な思考力・発想力を育てる

講師：川口先生、杉田先生、大甲先生、前田先生、松原先生（県内小学校教員5名）

多くの応募者の中から選ばれた32名の入門者は、さまざまな操作活動を通して“算数の楽しさ”を体感しました。

- [7/25] 「すごろくドボンゲーム」「閉じ込めちゃうぞ・ハノイの塔」
- [7/31] 「ひと筆書き」「dめますの不思議」
- [8/ 7] 「クルリンパ」「数理ゲーム」
- [8/21] 「一刀切り」「タングラム」

お笑い道場

落語を学び、ユーモアセンスと表現力を育てる

講師：安野家 仁楽齋 氏
（社会人落語家、フリーアナウンサー）

本物の落語を味わい、扇子の使い方や落語を話すときの視線の配り方、しぐさ等を学び、また、実際に高座に上がって自己紹介したり落語のオチを練習したりしました。

お笑い大会では会場に集まった家族の皆さんに、小咄や謎かけを披露しました。

- [8/ 1] 落語を勉強しよう
- [8/10] 自分を表現しよう
- [8/17] 大きな声で会話しよう
- [8/26] お笑い大会（発表会）



アイデア ロボット フェスタ

期間中、県内の中学生、高校生、高専生が製作した
アイデアあふれるロボットを展示するほか、2日間の「チャレンジデー」を設け、
見て・聞いて・触れて楽しめる機会を提供しました。



中学生・高校生・高専生によるロボット展

期間：平成30年12月8日（土）～平成31年1月20日（日）
場所：富山県教育記念館1階

コンテストや競技会へ出品されたロボットをはじめ、県内の中・高・高専生が日頃の研究の成果として製作したロボットを一堂に展示し、各校の日頃の研究の成果を披露しました。

ロボット出展校

(五十音順)

- 【高等専門学校】 富山高等専門学校射水キャンパス
富山高等専門学校本郷キャンパス
- 【高等学校】 魚津工業高校 高岡工芸高校 砺波工業高校
富山工業高校 不二越工業高校
- 【中学校】 富山市立大泉中学校 富山市立新庄中学校
富山市立速星中学校 南砺市立吉江中学校



チャレンジデー 1月13日・19日開催

■講演会 (場所：高志会館カルチャーホール)

「村田製作所のロボット開発」と題して、(株)村田製作所広報部の吉川浩一エキスパートに、同社のロボット開発にまつわる苦労話や裏話を交え、ものづくりの楽しさや達成感などをお話いただきました。また、最先端技術を搭載した「チアリーディング部」の玉乗りをして踊る4体のロボットによる素晴らしい演技も披露され、大きな拍手に包まれました。



■デモンストレーション (場所：高志会館カルチャーホール)

工業高校生や高専生が製作した7体のロボットを、それぞれのコンテスト会場を再現したステージで、実際に動かしてもらい、来場者の皆さんにロボットが動く様子を間近で見させていただきました。生徒たちにとっては、日頃の活動の成果を披露する場になりました。



■ロボット作り教室

教室①「紙コップすもうロボット」



24名の参加者は、中学校の技術・家庭科の先生の指導の下、紙コップで相撲ロボットを工作し、リモコンで操作しながら相撲対決をしました。それぞれのロボットにしこ名をつけ、富山場所を開催し、トーナメント式で対戦しました。



教室②「カムプログラムロボット」



22名の参加者は、富山工業高校の生徒の指導により、カムを使って動きをプログラムできるロボットの製作に取り組みました。今回はパーツが多かったせいか、時間内に完成できず試走する時間ありませんでしたが、最後には完成したロボットを、満足そうに持ち帰りました。

こんな事業もしています

幼児教育支援セミナー

「接遇・コミュニケーション研修」

講師：株式会社よしもとコミュニケーションズ
 国家資格 キャリアコンサルタント
 秋田 幸子 氏

このセミナーは、幼稚園や保育所において、保育者としての接遇やコミュニケーション能力を向上していただくためのものです。

毎回20名程度の参加があり、グループワークを通して、接遇・コミュニケーションのポイントを学んでいただきました。

第1回 基礎力アップで信頼を育もう！

— 子どもも保護者も 話しかけたくなる先生になるために —

第2回 魅力アップ！いきいきワクワク輝いて仕事をするために

— ベテランだって悩んでいる！より良い職場づくりに向けて —

第1回



第2回

高等教育振興事業

県内の4年制大学など高等教育機関が実施する教育研究活動及び地域連携活動等に対する支援（助成金の交付）を通じて、本県の学術、文化及び産業の発展を図りました。

（30年度の助成見込み：53件 23,979千円）

- 学会・シンポジウム等の開催に対する助成事業
- 公開講座等の開催に対する助成事業
- 著名研究者等による学術講演会の開催に対する助成事業
- 研究助成事業（若手研究者育成枠・地域課題解決枠）
- 大学連携支援事業
- 私立大学振興事業（学生確保推進支援・大学活性化支援）

ひとづくり財団からのお知らせ

富山県教育記念館の会議室ご利用案内



富山県教育記念館では大会議室1（収容人数：60名）、会議室3（収容人数各24名）の計4室を貸し出ししています。会議や講演会等でのご利用をお待ちしています。

ご利用のお問合せ・お申し込みは、
 当館1階受付 TEL：076-433-2770 まで

※受付時間 祝日を除く8時30分から17時まで

ご利用料金、空き状況などは、下記URLから確認できます。

<http://www.t-hito.or.jp/reserve/>

賛助会員の募集

富山県ひとづくり財団では、広く財団の目的に賛同される個人、法人の方々に賛助会員としてご協力いただきたいと考えております。多くの皆様のご賛同をお願いいたします。

- 年会費：法人会員 年一口 30,000円
個人会員 年一口 3,000円
- 特典：機関紙の定期配布（年1回）、イベント等の開催案内、各種報告書等配布、県の情報誌、冊子等の配布
- 申込方法：入会ご希望の方は、財団へご連絡ください。



平成31年度 富山県ひとづくり財団 事業概要

1 人づくりに関する調査研究及び普及活動

① とやまファン倶楽部事業

富山県をこよなく愛し、全国から富山県を応援する方々のヒューマンネットワークづくりを推進します。

② 退職教員等活用推進事業

退職教員や民間企業の人材を登録し、学校現場へ紹介することにより、学校における人材確保と優れた指導実践の継承を図ります。



2 元気で創造性豊かな子どもの育成事業

① 「夢の卵」 育成事業

② 「きらめき未来塾」 事業

右脳活用道場（漫画）、思考道場（算数）、お笑い道場（落語）

③ 「高校生とことん科学セミナー」 開催事業

数理科学の分野で世界的に活躍する人材を育成するため、各専門分野の第一線で活躍されている科学者・数学者を招いて、高校生を対象に最先端の研究に関する講義と、ひざを交えた交流会を行います。

秋山仁先生のスペシャル公開授業

3 元気な地域づくり事業

「学ぼう！ふるさと未来」 支援事業

ふるさとに学び、ふるさととともに生きる地域活動を実践している小学校を支援します。

4 優れた人材育成支援事業

「とやま賞」 贈呈事業

5 教育の歴史文化に関する文献の収集・保管・展示

① 特別展及び恒例展の開催

富山県教育記念館1階 展示スケジュール

- 【特別展】 4 / 10～ 5 / 26 「絵日記で綴った学童集団疎開」
- 【恒例展】 6 / 5 ～ 7 / 7 「児童・生徒によるものづくり展」
- 7 / 17～ 8 / 25 「さんすうワールド展」
- 9 / 4 ～ 10 / 6 「子どもの目、自然不思議発見写真展」
- 10 / 11～ 10 / 20 「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- 10 / 25～ 11 / 10 「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
- 11 / 16～ 12 / 1 「富山県造形教育作品展」
- 12 / 7 ～ 1 / 12 「アイディアロボット展」
- 1 / 24～ 2 / 9 「富山県中学校美術展」
- 2 / 19～ 3 / 22 「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

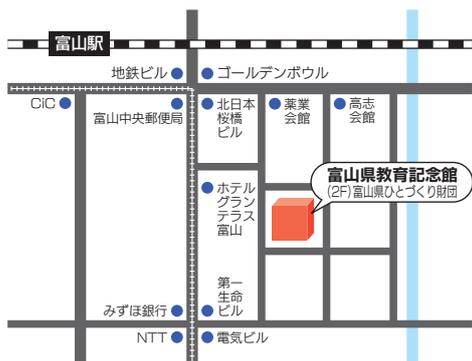


② 教育資料収集

富山県の教育の歴史や文化に関する文献や資料の収集及び整理を行い、各種教育展示等で利用します。

6 高等教育振興事業

7 教育記念館管理運営事業



公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001
e-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

平成31年3月発行